

【別冊】

令和 7 年度
社会福祉法人白日会事業報告

社会福祉法人白日会

目 次

1	令和7年度 事業報告総括	1
2	令和7年度たんぽぽ保育園事業報告	2
3	令和7年度特別養護老人ホーム照古苑事業報告	7
4	令和7年度地域密着型介護老人福祉施設照古苑ひまわりホーム事業報告	15
5	令和7年度宇土市地域包括支援センター事業報告	22
6	資料編	27
(1)	地域における公益的取組	27
①	生計困難者レスキュー事業	27
②	公開講座	27
(2)	利用者の状況	28
①	たんぽぽ保育園	28
②	五色山学童クラブ	28
③	特別養護老人ホーム照古苑	28
④	ひまわりホーム	29
⑤	照古苑ショートステーション	29
⑥	照古苑ひまわりホームショートステイ	29
⑦	照古苑デイサービスセンター	30
⑧	照古苑ひまわりホームデイサービス	30
⑨	ウェルネス照古苑いきいき道場	31
⑩	照古苑居宅介護支援事業所	31
⑪	地域包括支援センター	33
(3)	地域包括支援センター活動実績	34
(4)	資金収支状況	38
②	法人単位	38
②	法人本部拠点	39
③	たんぽぽ拠点	40
④	照古苑拠点	41
⑤	ひまわり拠点	43
⑥	公益事業拠点	44
(5)	積立資産状況	45

令和7年度 白日会活動報告

1 総括

令和7年度、第1期中長期経営計画の最後の年度となりました。

事業面においては、4月から短期入所の受入れ人数制限を6名から10名に増員し再開致しました。また、通所事業においても前年度より実績が伸び、概ね目標値に近い実績となりました。

経営面については、入所者等確保経営会議を開始。各事業所管理責任者が月1回集まり、実施状況や課題、対策等を同じテーブルにのせ話し合いました。この会議により部署間の状況共有、協働体制がより図れるようになってきました。

また、人件費、食材費等、広範囲の諸物価高騰の影響を大きく受けております。状況改善のため、施設運営や経費の見直しなど組織全体で工夫し、今後も継続してまいります。

数年前から最も注力して取り組んでいるのが、「照古苑」の建替えです。課題を1つ1つ処理し、補助金の要件等丁寧に確認しながら計画を進めています。建替えする施設は全室個室ユニットケアへの転換です。ユニットケアに関する研修受講や、施設間人事交流など計画的に取り組んでいます。

人事管理面においては、大学、高等学校等へ求人活動では、時代にあった情報発信に努めました。また、実習受入や外国人技能実習生の確保と入職後の定着に向けた教育、環境整備にも取り組みました。

また、地域における公益的事業の1つ「生計困難者レスキュー事業」は8年を経過、今年度は相談件数7件、支援件数5件でした。複雑な生活課題を抱えた方が増える中、行政による支援の手が届かないセーフティネットとして、社会福祉協議会と連携し対応致しました。

また、地域に向けた公開講座の開催（年2回）や出前講座（地域食堂へ施設について講演）に出向く等、地域貢献活動も行いました。

最後に、ここ数年、地震、風水害の被害が全国的も増えています。当苑における感染症及び災害発生時における事業継続計画（BCP）に関する研修及び訓練（連絡網訓練、水害、火事避難訓練等）の実施、計画の見直しも行いました。

令和8年度は第2期中長期経営計画（5年間）の始まるの年となります。法人の基本理念と長期経営計画の実現に向け取り組んでまいります。

令和7年度たんぽぽ保育園事業報告

課題解決に向けた取組

(1) 心豊かな暮らしづくり

① サービスの質の向上

課 題	選ばれる施設づくり
実行計画	・ 保育所保育指針・コダーイ保育への理解を深めるため、引き続き外部講師を招いて園内研修を行い、できるだけ多くの職員が討議に参加します。 ・ 毎月の運営委員会と共に食育検討会を行い、職員同士で研鑽を深めるとともに、各年齢や発達に合わせた食事づくりをします。 ・ 小学校、幼稚園との連携を継続し、積極的に会議へ参加し、小学生・幼稚園児との交流に参加します。
実績	・ 保育所保育指針・コダーイ保育への理解を深めるため、福岡から年6回外部講師を招いて研修を行いました。同じ方向性を持つ三園において、乳児・幼児クラスの公開保育を実施し他の園にも参加して共に見合い、学び、保育内容を深めることが、出来ました。 ・ 食育検討会を給食会議と位置づけ、こどもが食べやすくなるためにどのように作り、どう関わっていけばいいのか詳しく話し合いを進めていくようになりました。 ・ 幼保小中関係の会議に園長・主任保育士・リーダー保育士が参加し、連絡を継続して小学生との交流も続けています。又、学校運営協議会に参加して花園小学校の取り組みを知って、保育園にも活かせるようにしていきます。

② 利用者の暮らしの保障

課 題	リスクマネジメントの強化
実行計画	・ 緊急時の保護者への連絡方法や避難場所について、入園説明会「入園のしおり」にて周知を図ります。(年1回) ・ 緊急蘇生法及び事故防止に関する研修を全職員対象に行います。(年1回) ・ 火災、水害、地震等を想定した訓練を実施し、危機管理マニュアルを共有します。(月1回) ・ 不審者対応訓練を実施し、日頃より職員間で意識を高めます。(年2回) ・ 衛生管理について園内研修を行い、共通理解を図ります。 ・ アレルギー対応食やの提供について、職員間で共通理解し、事故が起こらないように努めます。 ・ ヒヤリハットや事故記録の検証と分析を行い、月1回報告会を開き事故発生の減少に繋がります。

実績	・入園説明会にて緊急時の保護者への連絡方法や避難場所について周知を図りました。 ・消防署に講師を依頼して、救急蘇生法及び事故防止に関する研修を全員が受講して、救急フレンドシップ事業所としての認定証を宇城広域連合消防本部より受けました。 ・火災・水害・地震訓練を月1回実施し、被害を想定して第2避難場所への訓練も行いました。 ・アレルギー対応食提供において調理員と保育士の作る側と配膳する側が密に連携して細心の注意を払い間違いが起こらないよう努めました。 ・ヒヤリハットや事故記録の報告を月1回することで周知でき、安全に見守る意識付けに繋がっています。
----	---

③ 福祉ニーズに即したサービスの徹底

課 題	保育ニーズに合わせた一時預かり保育事業の方向性の検討
実行計画	・子育てに悩んでいる保護者に寄り添った支援であり続けるために、研鑽を積みみます。
実績	・保護者の方にはこちらから声をかけ日頃から話しやすい関係をつくれるようにします。丁寧に聞くことで困り事を知り、手助けができ寄り添えるようにしていかなくはいけません。

課 題	特別な支援を必要とする子どもの保育の充実
実行計画	・特別支援教育に関わる専門機関や保健師との連携を強化します。 ・園内において、保護者と療育支援員を交えての支援会議を行います。 ・必要に応じた職員配置とし、きめ細やかな支援をします。 ・情報を共有できる仕組みを定着させることで、全職員で共通した支援をします。 ・キャリアアップ研修「障がい児保育」への派遣研修や講師を招いての園内研修を行い、職員の理解を深めます。
実績	・特別な支援を必要とするこどもが増加傾向にあります。気になるこどもに対して園と保健師が連携し専門機関への相談に繋がるようになりました。一方で、どうしても受け入れ難いご家庭もありましたので、園においてできる限りの関わりをしていきました。保護者・療育通所支援事業所・療育相談支援事業所・保育園の四者で支援会議を開き見通しを持った支援・共通理解へとなっています。親子療育に参加する保護者の方もいて、必要性を感じています。 ・巡回支援専門員整備事業の活用において、専門員の方に園訪問を依頼して、こどもとの関わりを知り、保護者の方とも話し合いをすることで、お互い見通しが持てるようになっていきます。継続していきます。

(2) 快適な住まいづくり

① 計画的な施設・居住環境の整備

課 題	子どもたちが安全で心地よく活動しやすい保育の環境の整備
実行計画	・月1回室内、園庭、駐車場の安全点検や見回りを継続し、危険箇所の早期発見に努めます。 ・倉庫、各クラスの戸棚等の環境整備活動を行います。
実績	・園庭において月1回、園庭施設遊具点検（4名）、砂場遊具点検（2名）を行い、室内においては、クラス職員が点検を行い、安全に遊べるように環境を整えています。危険箇所は、早急に対応していきます。 ・経年使用による夏場の扇風機、エアコンの修理もあり、特に急ぎの対応を必要としました。

(3) 活かに満ちた職場づくり

① 人材の確保と定着

課 題	保育士の確保
実行計画	・ハローワークや人材紹介所等を活用し、人材確保に努めます。 ・ホームページを活用して、職員募集の掲載を行います。 ・実習生の受入れを積極的に行い、人材確保に繋がります。
実績	・ハローワークやホームページを活用して職員募集の掲載を行っています。 ・大学に出向き、実習生の受け入れを行いました。保育内容を理解していただけるように実習計画をたてて受け入れ、今後の保育士確保に繋がります。

② 人材の育成

課 題	職員の専門性の向上
実行計画	・雇用形態に関わらず、外部研修への参加を積極的に行い、職員全体の専門性の向上を図ります。 ・研修で学んだことを日々の保育に活かすことができるよう、研究グループを中心に園内研究を充実させます。 ・チーム保育の体制づくりについて、職員間で協議を行い実践するとともに、主任、副主任を中心に経験の浅い保育士の指導、助言を行います。 ・外部講師を招いた実践に結びつく勉強会、わらべうた研修を計画的に取り入れ、職員間で研鑽し合います。 ・保護者への対応や職員間のコミュニケーション能力を高められるよう努めます。
実績	・外部講師による勉強会では、実際の保育をみて気づきを伝え、保育に対する思いやこどもの育ちを知り、観察する側、観察される側の双方の学びとなっています。講師の先生の温かな雰囲気の中、学ぶことができています。

	・チーム保育の体制づくりについて役割を確認して取り組み、実践したことを検証して次に生かせるよう話し合いをしています。継続できるように年度初めから計画を立てて、経験の浅い職員にも丁寧に伝えることを心掛けました。 ・新人研修会は、主任が、年10回テーマを決めて行い、保育実践に役立つ内容で進めていき、こどもと向き合う中での困り感にも対応していています。
--	---

③ 職場環境の改善

課 題	働きやすい環境づくり
実行計画	・園長、副園長、主任保育士が中心となって、日頃から職員に声をかけるようにし、相談しやすい雰囲気づくりを心がけ、必要に応じて面談の機会を持つようにします。 ・協力して業務を行うことで、休暇が取得しやすい職場の雰囲気づくりをします。 ・メンタルヘルス・ハラスメント防止研修を行うことで、意識を高めます。 ・職員のリフレッシュに繋がる企画や、コミュニケーションを円滑にするための機会をつくるように努めます。
実績	・社会保険労務士法人ブレインスターの方による コミュニケーション・伝え方・感情コントロールのスキルを向上させるためのリーダーシップスキルアップ研修会を3回受講しました。今後に活かせるようにしていきたいと思っています。 ・業務を職員間でお互い協力し合い、補い合い休暇が取得しやすくなっています。今年度からは、看護休暇は、就学前のこどもから、小学3年生になり幅が広がって子育て中の職員にとって活用できています。 ・「職場のパワーハラスメントの理解と防止」について特定社会保険労務士の方から職員全員研修を受けました。快適な職場環境づくりのために必要な知識の習得において職場のパワーハラスメントとはどんな行為なのか・パワーハラスメントのない職場にするために日頃からできることを学びました。予防や対応のしかたは難しいですが、理解して知識を得ることは、重要です。

④ 業務の改善

課 題	担当業務の負担を軽減するための体制づくり
実行計画	・職員個々がワークライフバランスについて考えることで、時間内に業務を終えることができるようにします。 ・積極的に情報交換を行い、業務の見直しや負担軽減を図ります。 ・リーダーを中心に役割を分担し、事務に係る時間を確保します。

実績	・ ICT 事業の運用が始まり、日誌や各種年間計画、ヒヤリハット報告、出席・延長保育確認、保護者からの連絡等活用の幅を広げることができています。個人記録にも活かせるようになりました。 ・ 保護者へのおたよりやその日の出来事をお知らせでき、緊急の連絡にも活用できています。 ・ リーダーを中心に役割を分担することで、責任を持つ意識が高まりつつあります。
----	---

(4) 安定的な経営の基盤づくり

① 収支の安定化

課 題	利用ニーズに基づく利用定員の弾力運用の継続
実行計画	・ 引き続き可能な範囲で定員の弾力化を図った受け入れを行います。 ・ 各種補助金や算定可能な加算を取得し、施設整備や職員確保に活用すると同時に、動向を模索し収支の安定を図ります。 ・ 安定的な運営のため、3歳未満時の受入れを全体の50%程度維持することを目標とします。
実績	・ 各種補助金や加算は、可能な限り取得し、収支の安定となるように努めました。小学校接続加算を取得し、今年度から始まった1歳児配置改善加算も取得、継続できるように職員配置を考えていきます。 ・ 土曜日の行事において、半日保育による補助金減算にならないように行事の組み合わせを考え対応しました。 ・ 3歳未満児の受け入れは、41%でした。0歳児の待機児童を受け入れることができず、目標に届きませんでした。保育士確保が難しい中ですが、少しでも解消できるように取り組んでいきたいと思ひます。今後も安全面に留意して、安心して預けてもらえるように細やかな対応をとり、受け入れを行っていきます。

令和7年度 特別養護老人ホーム照古苑事業報告

課題解決に向けた取組

(1) 心豊かな暮らしづくり

① サービスの質の向上

課 題	看取りケアの推進と重度化への対応
実行計画	・常に利用者及び家族の立場に立って、安心のサービスを提供し満足度を高めます。 ・看取り検討委員会の運営、看取りケアに関わる多職種連携の場（看取り前・後のカンファレンス）を行います。 ・人生の最終段階におけるケアに関する職員研修を実施します。 ・特定行為業務及び緊急時の対応に関する研修を実施します。 ・夜間の看取り対応について、オンコール看護師と夜勤介護士のみでの体制整備、エンゼルケアの心構えや夜間対応への手順書を作成し周知徹底します。
実績	令和7年度の退所者31名のうち、施設内看取りにて最期を迎えられた方が12名。ご入所者の多くが当苑での終末期ケアを望まれており、提供できています。看取り後のご家族アンケートを実施。満足度、要望の把握に努めました。「最期を迎える心の準備ができた」「満足している」という感想を頂きました。 昨年より、看取り委員会は、具体的な課題やケアについて課を超え話合う形に発展しました。よって、看取り後に反省や残された課題を話し合っていたカンファレンスは開催する機会はありませんでした。 夜間の看取り対応は、オンコール看護師と夜勤介護士のみでの体制が整備できました。特定行為業務に関する研修は行いませんでした。

課 題	認知症ケアへの対応
実行計画	・認知症を理解し、ケアの質の向上を図るよう組織全体で取組みます。 ・職員研修の実施。 ・法人内認知症キャラバンメイトが講師を担いサポーターを養成します。（初任者研修で認知症サポーター養成講座実施） ・認知症介護実践者研修、認知症介護実践リーダー研修への派遣、及び認知症ケア専門士資格取得をサポートします。職員の希望を確認しながら計画的に実施します。
実績	新入職員や技能実習生への認知症サポーター養成講座を実施しました。 課題としては、認知症介護実践者研修、認知症介護実践リーダー研修への計画的な派遣ができなかった事、認知症ケア専門士資格取得のサポートが必要と考えます。

② 利用者の暮らしの保障

課 題	リスクマネジメントの強化
実行計画	・安全対策委員会で、事故について振り返りを行い、対応策の適否を検証します。再発防止のため職員間で情報共有します。 ・ベッドをはじめマット、センサー、車いすの選定の際は、介護事故の防止や安全面に考慮し各部署の助言を聞きながら選定に努めてまいります。 ・入所者の事故を防ぐ介護ロボット等を積極的に導入します。 ・ヒヤリハットノートを活用し危険予測・介護事故予防等を図ります。 ・安全対策に関わる研修を年2回実施します。
実績	毎月安全対策委員会にて、事故に対する振り返りを行ないました。繰り返しの事故や事故件数が多いものに対して、同委員会からの助言を行い事故防止に努めました。昨年度に引き続き、褥瘡発生のリスクや安楽な肢位の確保のため耐圧分散マットを使用しました。今後もベッドをはじめマット、センサー、車いすの選定の際は、介護事故の防止や安全面に考慮し各部署の助言を聞きながら選定に努めてまいります。 職員研修では、「令和6年度事故報告・安全管理指針」「事故が起きたら事故カンファレンス」をテーマに安全対策研修として年2回実施しました。 今年度の事故については、皮下出血や表皮剥離等の外傷が一番多く、例年通りの結果となり、また、行政への報告が必要なものについても薬関係の事故や感染症、骨折等の重大事故も報告がありました。同様の事故を繰り返し起こさないように事故対策を徹底し、利用者様が安全に安心して生活して頂けるよう努めてまいります。

課 題	権利擁護の徹底
実行計画	・虐待防止・権利擁護に関する職員研修を実施します。(年1回) ・不適切ケアのアンケートを実施し、結果の検討を行います。(年1回) ・虐待防止・権利擁護相談窓口の運営、マニュアルに沿った対応に努めます。
実績	法人全体のアンケート(虐待の芽チェックリスト)を年1回実施しました。不適切なケアを見聞したという件数はあるものの、職員同士で注意したり、自らのケアを振り返り、反省している意見もありました。 職員研修では、「高齢者虐待は何故おきる?～未然に防ぐケアポイント～」 「身体拘束せずに事故を防ぐ方法」をテーマに学び、意識強化を図りました。

③ 福祉ニーズに即したサービスの徹底

課 題	信頼と協力を得るための情報発信
実行計画	・ホームページの更新及び広報により、随時の見学受入れなど地域への情報発信を積極的に行います。 ・小中学校等との交流や介護実習体験を積極的に受け入れます。 ・熊本県社会福祉協議会と連携し小中学校への出前講座を行います。

	・社会福祉法人の公益的な取組、地域支援体制の整備の一環として、地域住民やご家族を対象とした公開講座を実施します。
実績	地域住民や家族向けに公開講座として「緊急救命措置～AED 実践」「認知症サポーター養成講座」を年2回開催しました。 社会福祉協議会から依頼のワークキャンプは今年度久しぶりに受入れ。 出前講座は走潟食堂にて約40名の方に特別養護老人ホームについて講話を行いました。 生計困難者レスキュー事業は相談7件・支援5件。昨年13件と比較して減少。相談者内訳は男性5名、女性2名。年齢層は20～40代が2名、50代2名、60代3名と年齢層は幅広くありました。多様な福祉ニーズを抱えた相談事例に相談員2名で地域社会資源と連携を図り対応に努めました。 また、新たに1名初任者研修を受講し法人内4名、相談対応可能な体制整備を図りました。

(2) 快適な住まいづくり

① 計画的な施設・居住環境の整備

課 題	設備機器等の計画的更新
実行計画	・改築時の設備機器購入のために、計画的な資産積立を行います。
実績	・令和7年度は、赤字決算が見込まれたため資産積立はできませんでした。

課 題	照古苑改築計画の策定
実行計画	・改築に関する諸条件の把握分析を行います。 ・設計に向けた協議を進めてまいります。
実績	「照古苑改築事業計画」を策定し、随時見直し、変更を行いました。開発行為関係、用地売買契約、建物配置計画図面作成、周辺水田の水利確保、埋立造成工事、代替職員駐車場の確保など多くの項目に対し、関係者や行政機関との協議や手続きを行いました。

課 題	施設整備等積立資産の計画的積立
実行計画	・施設運営に支障を来すことなく、計画的な積立・運用を行います。
実績	・寄付金収入がなかったため寄付金の積立はできませんでした。 ・施設整備積立資産資金運用による利息 5,620,000 円の積み立てを行いました。

(3) 活気に満ちた職場づくり

① 人材の確保と定着

課 題	人材の確保
実行計画	・ 職場体験、施設実習の受入れを行います。 ・ 高等学校等への求人活動において、熊本県認定「ブライト企業」を活用し、働きやすい職場を周知していきます。 ・ ハローワーク、福祉人材センターや民間求人機関等を積極的に活用していきます。 ・ 外国人技能実習生の計画的な採用と指導・支援を行います。 帰国や事業所変更の希望者を把握し減少分の人員の確保に努めます。 ・ 技能実習生を指導できる職員の育成を引き続き行っていきます。
実績	高等学校等への求人情報を作成。ハローワーク、人材センター等積極的に活用、技能実習生派遣機関と連携を図り、入職や継続就労につながるよう努めました。今年度も、多数学校から実習受入れしましたが、入職には繋がりませんでした。 人材の定着に向けて新入職員や技能実習生へ個別に面談や指導の時間を設けました。技能実習生においては、受入れから数年経過し、夜勤業務や記録入力作業など業務の幅が広がってきました。日本語でのコミュニケーションの難しさなどありますが、生活面や業務指導など組織全体で支援に努めました。 介護士、介護支援専門員は慢性的に人員不足ですが、今いる職員同士が協力しあい事業継続してきました。

課 題	人材の定着
実行計画	・ 人事計画検討会議にて組織の現状把握を行い、将来を見据えた人事体制、システム構築に努めていきます。 ・ 階層別研修を実施します。 ・ 職場環境に関する職員アンケートを年1回実施し、法人内の職場環境の現状、課題を把握し、年間計画の策定、実行につなげます。
実績	人事計画検討会議は月1回開催し、適宜状況に応じた人事調整を行いました。ハラスメント相談窓口、相談対応マニュアルは既に整備済みです。 研修や運営会議にて随時窓口を周知。また、総合相談窓口設置によりこれまで相談に至らなかった内容の相談受付、対応を数件行いました。 アンケートはハラスメントに関するアンケートの内容を改定、年1回実施。アンケートにより予防や意識付けにつながるよう続けています。

② 人材の育成

課 題	職員の専門性の向上
実行計画	・認定特定行為業務研修該当者への研修を計画的に行い、今以上に喀痰吸引等の医療ニーズに対応できる体制の整備に努めます。 ・職場外の専門研修へ計画的に参加してまいります。 ・等級ごとに、介護技術を基礎とした専門性の到達目標を設けています。上司の指導・助言の下で、安心して介護技術を習得できるサポート体制を整えます。
実績	認定特定行為業務研修は今年度、実施しませんでした。 外部研修は業務内容や、職員の成長過程、役職に応じ受講致しました。 施設改築、ユニットケアへの移行に向け、役職者中心に当該研修を数名が受講しました。

課 題	研修計画の策定
実行計画	・個々の技術、経験に応じた段階的な多職種の研修計画を策定し実施します。 ・法人の目標、年間計画を踏まえた研修計画を策定し、課題や取組に活かせる研修運営に努めます。 ・各委員会と連携協力し、研修を運営します。 ・感染対策を図り、職員が等しく研修受講できる環境づくりに努めます。
実績	外部研修は、新人、技能実習生、中堅、役職者与其々段階的に研修受講ができました。また、職員研修はオンラインや動画を活用。多様な勤務体制・職種に応じた内容を準備工夫して計画的に行う事ができました。 苑内での集合研修は実施しませんでした、3法人共同の集合研修に数名参加しました。

③ 職場環境の改善

課 題	職員の心身の健康管理の推進
実行計画	・セルフケア（自分自身をケアすること）の教育やリフレッシュ休暇の取得を推進します。 ・年次有給休暇の取得率50%を目指します。 ・組織全体で取組む業務や行事、照友会活動において職員相互交流の機会づくりに努めます。
実績	年1回ストレスチェック実施。 年次有給休暇取得状況を毎月運営会議にて確認。 今年度は季節行事やコロナから数年ぶりに照古苑祭を開催しました。

課 題	ハラスメント防止対策の徹底
実行計画	・ハラスメントを防止するための窓口設置、相談対応マニュアルに沿った対応を行います。 ・初任者を対象に窓口周知の研修を実施します。 ・全職員対象のハラスメント防止に関する研修を実施します。 ・年1回ハラスメントに関するアンケートを実施し、職員の意識付け現状の把握を行います。 ・現状を踏まえ、カスタマーハラスメント対応指針、マニュアルの整備検討。
実績	今年度は、ハラスメントパワーハラスメントとセクシャルハラスメントに加え、多様なハラスメントに対応できるようマニュアルを改定しました。さらに、カスタマーハラスメント対策・指針を追加・整備しました。 職員研修では「対人援助職のためのカスハラ対応～職場の安全を守り離職を減らす～」 「アングーマネジメント」等 現在のニーズに応じたテーマの研修を実施。働きやすい職場環境づくりに努めました。

④ 業務の改善

課 題	I C Tを活用した介護機器等の積極的な導入
実行計画	・令和6年導入した介護ソフトを活用し、記録や提出書類等の簡素化を図ります。 ・ナースコールや見守りセンサーとの連携を図ることで大幅な業務の負担軽減につなげていきます。 ・入所者の快適な環境づくり、職員の負担軽減、介護事故の減少が図れるよう可能な範囲で、福祉用具の導入検討を行っていきます。
実績	昨年導入した介護ソフトは請求ソフトと連動し、事業所共通（包括以外）であり、職員異動や利用者の情報共有や連携が図れるようになりました。 介護ソフトはパソコン、i P a d 両方活用し業務効率化を図りました。 今年度初めて、介護職員の勤務表作成を支援する AI ツール「ミラモス」を試用。課題確認を行い活用できるよう動き出しています。

課 題	時間外勤務の縮減
実行計画	・労働時間等設定改善委員会を開催して業務内容を精査し、無理・無駄の少ない職場づくりに努めます。 ・事業運営会議で時間外勤務実績について情報共有し、原因分析を行い、時間外勤務の縮減意識を高めていきます。 ・夜勤体制の見直し（時間外、業務見直し等）

実績	労働時間等設定改善委員会は月 1 回開催し、時間外や業務負担軽減、有給取得状況について検討しています。 夜勤体制については、※夕食介助の人員確保のための夜勤職員（6 名）の 2 時間の時間外を継続しています。 現在 19：00～翌 9：30 拘束時間 14 時間 30 分（実働 12 時間）＋17：00～19：00（2 時間の時間外） 令和 6 年度は 4 課職員の人員不足の為、ショートステイの利用者数の上限を 6 名としていました。令和 7 年度から収益アップを目標として配置職員はそのまま利用者数の上限を 10 名に上げました。 ※照古苑入所者様の状態に応じ、空床が生じる事が想定できる場合に、ショート利用者数の上限を超え利用頂いています。また、緊急でショート利用が必要な方についても受入れを行っています。（1 日最大 14 名を受入れた事もありました） 現状 6 名の夜勤者で対応する為には各課の応援体制が必須となります。1 課から翌 6：00～7：00 2 課から 19：00～20：00、翌 5：00～6：00 合計 3 時間を上限として応援体制を行っています。 ショートステイの受入れ上限 6 名→10 名＋αに増加。夜勤者数はそのままの人数で運営している事を考慮すると夜勤者の 2 時間の時間外は適正と思います。
----	--

（４）安定的な経営の基盤づくり

① 収支の安定化

課 題	利用率の維持向上
実行計画	・入所待機者の状況把握を早い段階で行い、また、家族面談や担当ケアマネからの情報収集を行い、速やかな入所に繋がります。 ・医療的ケアの必要な方の受け入れ体制の検討を行います。 ・くまもと心療病院との連携・連絡会議を月 1 回行い、重度の認知症の方の円滑な受入れに繋がります。 ・入院時は、家族の相談に応じると共に、医療機関と連携を図り、スムーズな退院、再入所の調整を図ります。 ・歯科医や歯科衛生士等と十分連携したうえで、口腔ケアを徹底し、誤嚥性肺炎、感染性心内膜炎等による入院を減少させます。 ・短期入所は、経営面において大きな影響を有しており、利用者の確保には居宅等の協力を得ながら、積極的な利用人数増加に努めます。 ・通所介護は、各曜日の利用者数を平準化できるよう、居宅介護支援事業者や家族からの予約・希望の受け方を工夫します。 ・居宅介護支援事業については、関係機関と積極的な連携を図ることで、新規利用者の確保に繋がります。

	今年度より経営会議を月1回開催。部署の枠を超え、法人全体で運営状況を共有し、職員一人一人が経営を担う意識が少しずつ浸透してきました。 医療機関との連携については、4月に3医療機関、2歯科と協定締結。それ以外の医療機関へ入所や短期入所の案内を積極的に行い、利用につなげることができました。 入所後の、受診及び入院についても必要な専門医療が受けられるように調整しました。また、退所後の特例入所された方が1人、再入所3人。治療後、生活の場に戻って頂けるよう医療機関との連携はもちろん、ご家族との関係構築に努めました。 特養の年間目標利用者109.0人に対し、年間実績108.7人となりました。 短期入所は再開し徐々にではありましたが、目標10.0に対し、年間実績9.1と昨年より増につながりました。 通所も徐々に利用実績が増加。目標30、年間実績28.21と目標値に近い実績となりました。短期・通所事業は法人独自の負担軽減制度を有期で導入。利用者確保、定着、実績増につなげる一助となりました。
--	---

課 題	オムツ・尿取りパッド使用の適正な把握
実行計画	・排泄委員会により、オムツ・尿取りパッドの使用法ならびに使用量を把握し、コスト低減を図ります。 ・ご利用者に適したオムツ・パットの使用を徹底しコスト低減の意識を持ちながら実施します。 ・新入職員や技能実習生に対するオムツ使用方法等の指導（ケアにあわせてメーカー職員の適切な研修を実施します。 ・他職員についても、タブレット端末での動画視聴を実施していきます。
実績	オムツ、尿取りパット等の排泄用品使用については利用者様ごとに尿量、尿失禁の有無、排尿間隔、体格などを把握し使用パットを選定しています。決定した排泄用品については表に一覧化。職員全員が同じパットを使用出来るようにしています。※使用している排泄用品が適正であるか定期的に見直しをしています。 事業運営会議にて報告される介護用品費（おむつ代）を課長会議にて報告。課長を通じて課内職員にも共有を図っています。また、定期的に排泄用品の単価表を各課に配布。コスト意識を持って行動するよう働きかけています。 新人職員や機能実習生には指導者が同行しOJTを行いながら指導、育成を行っています。指導者は新人職員の技術習得の進捗状況を確認し、新人職員が一人で安全にケアが行えるまで繰り返し指導を行っています。

令和7年度 地域密着型介護老人福祉施設照古苑ひまわりホーム事業報告

課題解決に向けた取組

(1) 心豊かな暮らしづくり

① サービスの質の向上

課 題	個別ケアの推進
実行計画	・24時間シートについて理解を深めることができるよう、全職員がユニットケアへの共通認識を持ちます。 ・多職種協働による24時間シートをケアプランの更新に合わせて遅滞なく更新します。 ・個別ケアの充実に向けて、「本人・家族の意向」の聞き取りシート等を活用し、暮らしの継続とユニットケアの原点である個々の好み、時間に合わせた起床、排泄、食事、入浴等の実践に繋がります。 ・認知症介護実践者研修、認知症介護実践リーダー研修への派遣、及び認知症ケア専門士資格取得をサポートし、認知症ケアのレベルアップを図ります。
実績	ユニット会議にて24時間シートの更新時期を担当職員へ伝えることで停滞する事無く更新を実施できました。また個別ケアについて、食事・排泄など状態変化がみられるご利用者へのケアの提供方法を職員間で話し合うことで、ケア統一を行いシート内容の変更を行いました。 認知症介護実践研修等への外部研修はできませんでしたが、オンデマンドでの職員研修で認知症ケアについて学習を行い、現在の認知症ケアについて日頃のケアについてユニット会議にての振り返りを行いました。

課 題	看取りケアの推進と重度化への対応
実行計画	・顧客対応として相応しい態度・丁寧語を徹底し、安心のサービスを提供することで、入所者・家族の満足度を高めます。 ・看取り検討委員会の設置運営、看取りケアに関わる多職種連携の場（看取り後のカンファレンス）を行います。 ・看取りケアに関わる職員研修を実施します。 ・職員の採用時に介護等マニュアルを配布し説明を行い、職員が統一したケアに取り組めます。 ・看取り体制を検討し、改善・整備に努めます。 ・特定行為業務及び緊急時の対応に関する研修を実施します。
実績	令和7年度は、ひまわりホームでは3名のご利用者の看取りケアを実施しました。ご家族より最期まで慣れ親しんだ施設で過ごすことが出来たこと、またスタッフの対応について感謝のお言葉を頂くことができました。

	看取り後のカンファレンスでは、ご家族の想いや看取りケア時に発生した課題やスタッフの不安などを苑全体で共有し、反省点や改善点を話し合う事ができました。
--	---

② 利用者の暮らしの保障

課 題	リスクマネジメントの強化
実行計画	・安全対策委員会で、前月の事故について振り返りを行い、対応策の適否を検証します。 ・類似の事故が起こらないよう職員間で情報共有します。 ・引き続き安全対策の全体研修を実施します。 ・入居者の事故を防ぐ介護ロボット等を積極的に導入します。 ・安全対策に関わる研修を年2回実施します。
実績	職員研修は、介護施設における事故発生後の必要な事・身体拘束の適正（事故を防ぐ）の講義を実施しました。 同様の事故発生を起こさないために、事故発生後から評価を行い職員間の情報共有を行いました。 事故報告であがるのは、主に皮下出血の報告でした。利用者様個人が動いてぶつけてしまわれる事もあっています。日常生活の中での、利用者様個々の動きを観察し防げる事故は防ぐ為に努めたことで、前年度に比べ事故件数報告減少も見られています。大きな事故につながる前に、ヒヤリ・ハットに職員個々が気づき情報共有できるように原因分析を行いながら努める必要があると考えます。今後も介護事故防止への意識向上に務めてまいります。 見守りカメラや低床型のセンサー付きベッド等の導入の検討を行い、ご利用者が、より安全・安心して生活ができる環境整備に努めてまいります。

課 題	権利擁護の徹底
実行計画	・福祉施設職員としての倫理観、福祉理念を理解し浸透させるため、虐待防止・権利擁護について全職員を対象とした職員研修を行います。 ・不適切ケアのアンケートを実施し、各部署において結果の検討を行います。 ・各部署において、実際のケアを振り返り、虐待になっているのではないかと考えられる事例を取り上げて検討し、権利擁護に関する意識強化を図ります。 ・虐待防止・権利擁護相談窓口の運営、マニュアルに沿った対応に努めます。

実績	職員研修では、「高齢者虐待防止」「身体拘束防止」をテーマに学び、また不適切ケアが行われていないかを確認するための虐待の芽チェックリストを実施しました。 毎月行うリーダー会議では権利擁護の徹底を管理者より繰り返しユニットリーダーへ伝えることで意識強化を図りました。 令和6年度にはひまわりホームでは不適切ケアと思われる事案がありましたが、令和7年度は不適切ケアと思われる事案の報告は0件でした。研修や職員への意識強化の効果があっていると考えられます。
----	---

③ 福祉ニーズに即したサービスの徹底

課 題	地域における公益的な取組の推進
実行計画	・地域の老人会、婦人会、民生委員、子供会などへの利用を促していきます。 ・法人公益的取組の1つである公開講座の開催や、交流スペースを地域住民が活用して頂けるよう発信し、関係機関とも連携を図ります。 ・開かれた施設づくりの1つとして、地域住民や家族のご意見等を頂き、広報誌の作成に努めます。
実績	認知症カフェは開催することはできませんでしたが、今年度も外部の方をお招きしての公開講座を2回実施することができました。 ご家族のご紹介により歌を披露してくださるボランティアの方の来苑があり入居者以外の方も楽しい時間を過ごして頂く環境を交流スペースで作ることが出来ました。

(2) 快適な住まいづくり

① 計画的な施設・居住環境の整備

課 題	適切な機器の更新と住環境整備
実行計画	・入居者及び家族の意向を把握し、入居者の暮らしが豊かになるよう、施設設備の点検及び更新をします。
実績	ベッドリモコンの故障やベッドキャスターの劣化があった個所の交換を行いました。また超低床ベッドの故障がありましたが部品が無く修理ができない為、令和8年度予算要望として購入予定です。 その他にはユニット個浴、リフトの漏電もありましたので部品交換を行いました。今後も定期的に施設設備の点検、及び更新を適宜行っていきます。

課 題	備品等整備積立資産の計画的積立
実行計画	・無理のない範囲で、着実な積立に取り組みます。

実績	大きな赤字決算が見込まれたため、資産積立を行うことはできませんでした。
----	-------------------------------------

(3) 活気に満ちた職場づくり

① 人材の確保と定着

課 題	人材の確保
実行計画	・ 職場体験、施設実習の受入れを行います。 ・ 高等学校等への求人活動において、熊本県認定「ブライト企業」を活用し、働きやすい職場を周知していきます。 ・ ハローワーク、福祉人材センターや民間求人機関等を積極的に活用していきます。 ・ 外国人技能実習生を計画的に採用していきます。
実績	令和7年6月に外国人介護技能実習生（ミャンマー）の面談を実施し3名の実習生の受け入れを予定しております。当初令和8年2月または3月頃の受け入れ予定が、大地震や国内情勢等の理由から入職時期が大幅に遅れるとの情報もありましたが、令和8年4月の初めには入職ができる状況となっております。 技能実習生の受入れ人数が増える一方、それを指導できる職員の育成が進んでいない状況もあります。介護職員の負担も増えてきており、今後は技能実習生の受入れ人数については慎重に検討していく必要もあると考えます。

課 題	人材の定着
実行計画	・ 人事計画検討会議にて組織の現状把握を行い、将来を見据えた人事体制、システム構築に努めていきます。 ・ 階層別研修を実施します。 ・ 職場環境に関する職員アンケートを年1回実施し、法人内の職場環境の現状、課題を把握し、年間計画の策定、実行につなげます。
実績	職場環境に関する職員アンケートや人事計画検討会議を実施し、各部署の役職者との情報の共有や課題に対して取り組むことができました。特に人事計画検討会議を通して適材適所の人員配置ができたと考えます。

② 人材の育成

課 題	職員の専門性の向上
実行計画	・ 認定特定行為業務従事者や介護福祉士、ケアマネジャー等の資格取得を施設全体でサポートします。 ・ 職場外の専門研修へ計画的に参加してまいります。

	・等級ごとに、介護技術を基礎とした専門性の到達目標を設けています。上司の指導・助言の下で、安心して介護技術を習得できるサポート体制を整えます。
実績	新たに介護福祉士・介護支援専門員の資格取得者はいませんでした。介護支援専門員の更新研修や介護福祉士資格取得を目指す職員に対して勤務時間内での学習時間の確保や費用の支援などを行いました。他には外国人介護技能実習生に対して介護現場で安全に業務が行えるよう、日本語でのコミュニケーション・基礎知識・技術の習得に向けて研修を行いました。

③ 職場環境の改善

課 題	職員の心身の健康管理の推進
実行計画	・セルフケア（自分自身をケアすること）の教育やリフレッシュ休暇の取得を推進します。 ・年次有給休暇の取得率50%を目指します。 ・照友会による歓迎会、忘年会、レクリエーションの開催を支援します。
実績	令和7年度は感染対策を行ったうえで照友会による歓迎会、忘年会、レクリエーションを開催することができました。 事業運営会議等で有給休暇、休暇取得の推進を周知しました。令和7年度も前年度同様50%以上の取得率をあげています。

課 題	ハラスメント防止対策の徹底
実行計画	・ハラスメントを防止するための窓口設置、相談対応マニュアルに沿った対応を行います。 ・初任者対象に窓口周知の研修を実施します。 ・全職員対象のハラスメント防止に関する研修を実施します。 ・年1回ハラスメントに関するアンケートを実施し、職員の意識付け現状の把握を行います。
実績	ハラスメント防止についての研修を初任者及び全職員対象の研修を計画通り実施し、窓口周知も事業運営会議にて行いました。また年1回アンケートも実施し職員への意識付けができました。 技能実習生については、より分かりやすく伝えるため日本人とは別枠で研修を行うなど理解して頂くような対応もとりました。

④ 業務の改善

課 題	I C Tを活用した介護機器等の積極的な導入
実行計画	・ 職員の負担軽減に繋がるような介護ロボットや I C T介護機器類など導入する機器の検討を行います。
実績	各ユニットにインカムの増台、A I 勤務表作成ソフト導入、移動式リフトのデモ機の導入を行いました。移動式リフトについては令和 8 年度に導入の予定です。 I C Tの導入は介護現場の効率化と職員の身体的・精神的負担軽減、安全性の向上、介護ケアの質の向上に繋がると考えます。課題としては、機器に慣れるまで時間を要する事や、機器トラブル、職員が使いこなせていない等があります。また導入してからも機器メーカーとの連携やサポートが継続的に必要となってくるものと考えます。 今後介護ロボット等を利用し、職員の負担軽減を行い現場全体の持続可能性を高める為にも介護テクノロジーの活用や生産性向上を推進するデジタル中核人材育成が必要になってくると考えます。

課 題	時間外勤務の縮減
実行計画	・ 業務内容を精査し、無理・無駄の少ない職場づくりに努めます。 ・ 原因分析を行い、時間外勤務の縮減意識を高めていきます。
実績	時間外の主な発生として 2 つの原因が考えられます。1 つは出勤当日の職員本人の体調不良や職員家族の体調不良等、急な欠勤がありました。そういった場合その日 1 日の人員確保ができず時間外が発生する場合があります。欠勤時には業務分担の調整を行い対応していきますが急な欠勤に時間外勤務でしか対応できない事があります。 もう 1 つは介護業務が優先される為、記録や報告書等の事務作業に集中できる時間確保ができないといったことです。その背景には日によって人員配置に余裕がない日があります。記録等の時間外には個人の能力の差も考えられる事があります。改善目標として業務の優先順位の整理や不要業務の削減等と業務の見直しも必要です。また I C Tの活用を行い業務効率化に繋げていければと考えます。

(4) 安定的な経営の基盤づくり

① 収支の安定化

課 題	利用率の維持向上
-----	----------

実行計画	・入居待機者の状況把握を早い段階で行い、また、家族面談や担当ケアマネからの情報収集を行い、速やかな入居に繋がります。 ・医療的ケアの必要な方の受け入れ体制の検討を行います。 ・くまもと心療病院との連携・連絡会議を月1回行い、重度の認知症の方の円滑な受入れに繋がります。 ・感染症対策を徹底し、感染症を予防し、入居者の感染症による入院を減少させます。 ・歯科医や歯科衛生士等と十分連携したうえで、口腔ケアを徹底し、誤嚥性肺炎、感染性心内膜炎等による入院を減少させます。 ・短期入所は、居宅介護支援事業所との密接な連携を図り、定期的な空き情報の提供や急なキャンセルの穴埋め等により利用率の低下を防ぎます。 ・通所介護は、各曜日の利用者数を平準化できるよう、居宅介護支援事業者や家族からの予約・希望の受け方を工夫します。
実績	特養については、目標利用率（99.10％）を超えることができました。ただ年々申込者数が減少しており、今後も入居待機者が少ない状況が続いていくことが予想されます。特養の待機期間が以前よりも短くなっていることの情報提供を積極的に行っていく必要があると考えます。 短期入所（ショートステイ）事業については、目標利用率（80.00％）を超えることができました。その要因として、ショートをご利用して頂きながら、ひまわりホームの入居を待つご利用者がおられることが大きかったと考えます。今後もご利用者・ご家族のニーズに合った調整を実施していきます。 通所介護（デイサービス）事業については、令和6年10月より地域密着型デイサービスへ変更しましたが、目標稼働率（80.00％）に届きませんでした。登録人数が多い曜日と少ない曜日がありますので、今後も各曜日の平準化を進めていくため居宅介護支援事業所やご家族へ情報提供を行っていく必要があると考えます。また予約・希望の受け方も工夫する必要があると考えます。

課 題	オムツ使用の適正な把握
実行計画	・排泄委員会を設置し、オムツの使用方法の適正化を図ります。 ・オムツの使用量を把握し、コスト低減を図ります。
実績	オムツやパットについては、日中・夜間、ご利用者の排泄量等の把握を行ない選定しています。排泄ケア用品の変更時には5日間程尿測を実施し排尿量を把握し変更を行っています。

令和7年度 宇土市地域包括支援センター事業報告

事業別の具体的な取組事項

1 包括的支援事業

(1) 総合相談支援事業

取組事項①	地域におけるネットワーク構築 ※対象者を気にかけ、何かあれば相談しようという意識の向上を目指す
内 容	・地域における様々な関係者のネットワークの構築を図ります。 ・講演を通して、周知啓発活動を行います。 ・個別のケース会議を通して、地域の個人のネットワーク構築を図ります。
実 績	・啓発活動を行いました。 地域団体 (中央民児協、れいんぼーマルシェ、宇土市消費生活センター、網津・網田支所、網田駐在所、民生委員児童委員、地区公民館長、商工会総会出席者、長浜地区の地域連絡会議、グループホームひとつな内覧会、南段原公民館集い仲間) 70歳、75歳交付式の参加者 つながる広場(老人クラブ主催)、体力測定と健康づくり教室の参加者 認知症サポーター養成講座や人生会議の講話参加者 ・公民館事業の成人講座(走潟、花園、宇土)、宇土高同窓会女性部、老人福祉センター利用者等に対して5件の講演を行いました。 ・個別ケースの必要に応じて地域住民や民生委員児童委員、行政区長、動物愛護団体、金融機関などとの連携を図りました。 ・地域密着型サービス事業所運営協議会に参加し連携を図りました。

取組事項②	実態把握
内 容	・上記で構築したネットワークを活用するほか、様々な社会資源との連携、高齢者世帯へ個別訪問、同居していない家族や近隣の住民から情報収集により高齢者や家族の状況等について把握します。
実 績	・必要に応じて訪問回数や頻度等を計画して実施しました。

取組事項③	総合相談支援
内 容	・様々な相談を受け、十分なアセスメントをベースに、丁寧に状況分析を行います。 ・相談内容に即したサービスまたは制度に関する情報提供、関係機関の紹介等を行います。 ・市民や地域組織団体に広く相談窓口の啓発を行います ・協力機関と地域に応じた支援体制を構築します。

実 績	・活動件数：2, 416件（うち初回相談件数：289件） ・生活実態のアセスメントを随時実施し、必要な各関係機関との連携やサービス等の社会資源の提案を実施しました。 ・市民や地域組織団体に広く相談窓口の啓発を行うことについては、取組事項①とセットで実施しました。 ・協力機関と定期的（5月、7月、9月、1月、3月）な連絡会を開催し、ケースへの助言や同行訪問を実施しました。 ・宇土市老人福祉センターとの定例会（5月、7月、9月、11月）を開催し、情報交換と必要な方への支援を行いました。 ・協力機関のヒアリングを実施し、事業内容の確認、助言を行いました。（11/18 ブランチ本町、11/20 ブランチ西部）
-----	---

取組事項④	保健福祉サービス等の適用調整
内 容	・主要な保健福祉サービスの相談に対して、手続き支援を行います。 ・介護支援専門員連絡会等で啓発を行います。
実 績	・申請件数：25件（食の自立支援13件、緊急通報装置9件、おむつ給付3件）

考 察	相談窓口の周知が進む中、身寄りのない高齢者や家族、地域との関わりが希薄な高齢者からの困りごとの相談が増えています。「タクシー代がかかるので病院受診に連れて行ってほしい」「足が痛いので買い物に行ってほしい」「風邪をひいたので食事を作りに来てほしい」と言った内容で、これまで身近な人が担ってきた事柄を公的なサービスに求める傾向にあり、単純に介護サービス等では補えることができない困りごとに対応するため、地域や他の相談機関との連携、協働をしながらの支援が不可欠となっています。また、婦人会などの地域団体の減少により、地域の見守り機能が弱まっている現状も見られ、窓口啓発の強化や早期の相談につながる仕組みづくりを検討する必要があります。 今年度は、1件の相談に対して複数回の訪問や電話対応が必要となるケースが多く、時間を要しながらも丁寧な支援を行うことができました。しかし、相談内容の複雑化が進み、救急隊との連携が必要となる緊急性の高い事例も見られたことから、職員の判断能力向上や複数名での対応体制の重要性が一層高まっています。さらに、12月には民生委員・児童委員の一斉改選もあり、新たな体制への啓発や連携づくりを強化することが求められています。 加えて、若い世代への啓発が十分に届いていないという課題も残っており、地域全体で支え合う仕組みを維持するためには、50～60歳代を含む幅広い層への働きかけが不可欠となっています。 これらの成果と課題を踏まえ、次年度は関係機関との連携強化や若年層へのアプローチの拡充を図りながら、より早期に相談につながる体制づくりに取り組んでいきたいと考えています。
-----	---

(2) 権利擁護事業

取組事項①	成年後見制度の利用促進
内 容	・ 包括支援センターの啓発時に成年後見制度の周知を行います。 ・ 成年後見制度の必要性や申立てについて、関係機関や関係者と調整を図ります。また、親族申立てが困難な場合は、必要に応じて市長申立てを高齢者支援課と検討、調整します。
実 績	・ 対応件数：68件 ・ 市長申立て要請者3名（初期集中支援チームでの支援を受けた方、高齢者虐待対応の方） ・ 病院から、頼りになる家族がいない方への支援に対する相談を受け、成年後見申立てでの調整支援を行いました。（市長申立て要請） ・ 成年後見制度が必要であると思われた方に対して、本人や親族への面談を実施し、制度の説明や意向確認を行いました。

取組事項②	老人福祉施設等への措置の支援
内 容	・ 高齢者虐待等の場合で、高齢者を老人福祉施設等へ措置入所させることが必要と判断した場合は、市と協議しながら、必要に応じて措置入所の支援を行います。
実 績	・ 今年度、措置支援はありませんでした。

取組事項③	高齢者虐待への対応
内 容	・ 包括支援センターの総合相談窓口啓発時に、高齢者虐待の相談窓口の周知を行い、早期発見、通報に繋がるようにします。 ・ 高齢者虐待の事例を把握した場合は、速やかに高齢者支援課と連携し、当該高齢者を訪問して安全・事実確認等、措置を講ずるとともに、背景要因を確認後、関係機関と協議しながら対応します。また、養護者支援も並行して行います。
実 績	・ 414件の対応を行いました。 ・ 公民館長、駐在所、70歳・75歳交付式、介護予防マネジメントの契約者、有料老人ホームや東部民生委員児童委員連絡協議会に対して周知啓発を行いました。また、協力機関へ虐待の気づきや通報ポイントを説明しました。 ・ 12月5日に、介護支援専門員や介護保険サービス事業所向けに研修会を実施しました。 ・ 高齢者支援課と連携して、虐待対応フロー図を作成し共有しました。 ・ 虐待の解消や養護者支援に向け、関係者を含めた会議を行い、計画を作成して対応しました。

取組事項④	困難事例への対応
内 容	・ 困難事例の相談を受けた場合は、複数の職員で訪問し状況を確認します。対応については、包括支援センター内で検証し各機関と連携をしながら支援していきます。
実 績	・ 対応件数：２７４件 ・ 対応事例：認知症がある独居の方、身寄りがない方、家族に障がいや精神疾患があり介護力が低い方、高齢夫婦ともに認知症がある方 ・ 課題の多い世帯については、本人だけでなく、その家族の支援者との連携を密にとりながら支援を実施しました。 ・ 地域の関係者や関係機関、制度に繋ぎ、ともに見守る支援を実施しました。

取組事項⑤	消費者被害の防止
内 容	・ 消費者被害を未然に防止するため、消費生活センターや警察、民生委員、介護支援専門員等からの情報把握に努め、必要な機関等へ情報共有を行い、住民への周知を図ります。
実 績	・ 不用品の買取業者についての相談があり、ご家族と共有し対策への助言を行いました。 ・ 訪問時には消費者被害や電話でお金詐欺の情報提供などを実施しました。 ・ ４月・３月に消費生活センターと連携し、最新の消費者被害の情報等を確認して、居宅介護支援事業所・包括連絡会や中央民生委員児童委員連絡協議会に対して啓発を実施しました。 ・ １１月に、不審な電話があったという相談あり対応をしました。 ・ ３月に、居宅介護支援事業所・包括連絡会で消費者被害についての情報提供を行いました。

考 察	成年後見制度の利用支援では、身寄りのない高齢者や経済的虐待が疑われるケースに対し、関係機関と連携し、円滑な制度利用に向けた環境整備の初動支援を実施しました。しかし、親族による申立てが困難な事例が増加しており、市長申立ての必要性が高まっているものの、手続きに時間を要する傾向があり、緊急性の高い事例では時間短縮が大きな課題となっています。今後は、手続きの迅速化と申立て前段階からの市との連携強化が必要だと感じています。 また、宇土市権利擁護研修会では高齢者虐待専門職チームの社会福祉士を講師に招き、介護支援専門員、介護サービス事業所の方々に向けた高齢者虐待への基本的な考え方の講義と事例検討を実施しました。権利擁護の視点の強化や虐待対応への理解につながったのではないかと感じています。 高齢者虐待の相談は１１件。相談者は、介護支援専門員が５件、その次に家族４件、外来看護師１件、施設管理者１件となっています。昨年度は地域の方からの相談や事業所からの相談がありましたが今年度はありませんでした。このことから、日頃から連携の多い介護支援専門員への虐待相談や対応の協力を
-----	--

	いただけるように、今後も周知啓発を行っていくとともに、地域の方に向けて、高齢者虐待防止の視点と相談窓口を周知する必要性を感じました。 高齢者虐待判断の件数は5件で、身体的虐待4件、心理的虐待が1件あり、虐待者は、夫が3件、娘が2件となっていました。虐待の背景として、高齢者が認知症や難病、性格に特徴がある方が多く、家族の介護疲れ・体調不良や虐待者の特性や精神疾患に起因することもありました。今後も虐待の背景要因や傾向などを踏まえ、リスクの把握や未然防止の視点を広めることが必要です。 今年度、困難事例への対応を通じて、独居や認知症、介護力不足といった地域課題の実態がみえてきましたが、支援の長期化に伴う職員負担の増大が課題となっています。 消費者被害防止については、介護支援専門員からの被害情報や消費生活センターから得た最新の被害情報を、宇土市内の居宅介護支援事業所や民生委員児童委員へ啓発を行い、訪問時の注意喚起につなげました。 高齢者を取り巻く課題は複雑化しており、単独での対応には限界があります。今後は行政及び関係機関との連携を一層強化し、地域全体で支える体制の構築と支援の質の向上、さらに職員の負担軽減に向けた体制整備を推進していく必要があります。
--	---

【資料編】

1 地域における公益的取組

(1) 生計困難者レスキュー事業

年度	相談 件数	支援 件数	支 援 総 額 (円)	年代別相談者 (人)								
				合計	10	20	30	40	50	60	70	80
2025 (R7)	7	5	54,903	5	0	1	1	0	2	1	0	0
2024 (R6)	13	13	204,694	13	0	4	3	2	0	4	0	0
2023 (R5)	12	12	150,319	12	0	2	0	1	3	4	0	2
2022 (R4)	8	8	108,432	8	0	0	2	0	4	2	0	0
2021 (R3)	9	5	49,038	9	0	2	0	1	1	1	2	2

(2) 公開講座

年度	開催回数	利用者数	備考
2025 (R7)	3	① 25 名 ② 19 名 ③ 40 名	◆公開講座 会場：ひまわりホーム会場で開催 ① 7月16日「レスキュー事業・AEDの取扱い」 参加者内訳 一般9名（介護予防サポーター8、社協職員1） 初任者 16名 ② 12月17日「認知症サポーター養成講座」 参加者内訳 一般4名 初任者 15名 ◆出前講座 走潟食堂 走潟公民館 一般約40名 ③ 3月28日「知っておきたい 特別養護老人ホームについて」
2024 (R6)	2	①16名 ②13名	公開講座 会場：ひまわりホーム会場で開催 ① 「レスキュー事業・AEDの取り扱い」 参加者内訳 一般4名（網田地区民生委員） 初任者 12名 ② 認知症サポーター養成講座 参加者内訳 一般 1名（たんぽぽ保育園） 初任者 12名
2023 (R5)	2	① 32人 ② 17人	公開講座 会場：照古苑、ひまわりホームの2会場でのハイブリッド開催 ①「社会福祉法人 白日会の役割について」 参加者内訳 一般17名（評議員2名、民生委員9名、 家族会5名、社協1名）初任者14名、小田会1名 ② 認知症サポーター養成講座 参加者内訳 一般3名（ろうきん1名、ケアパーク2名） 初任者14名
2022 (R4)	1	① 31人	認知症サポーター養成講座 ① 参加者（照古苑初任者：18人、一般13人：地域5人、家族会7人、SS 利用者家族1人） 会場：照古苑、ひまわりホームの2会場でのハイブリッド開催

2 利用者の状況

(1) たんぽぽ保育園

毎月初日の年間平均利用児童数

単位：人

年度	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	全体
2025 (R7)	10.6	20.6	20.7	25.0	23.0	24.0	123.9
2024 (R6)	10.7	21.4	24.0	24.0	24.0	28.0	132.1
2023 (R5)	11.7	22.3	23.6	24.6	28.0	21.0	131.2
2022 (R4)	11.3	22.2	23.1	25.8	19.8	29.3	131.5
2021 (R3)	12.6	20.5	23.8	20.0	28.0	27.0	131.9

※ 小数点以下第2位を四捨五入しているため合計数と必ずしも合わない。

(2) 五色山学童クラブ

毎月初日の年間平均利用児童数

単位：人

年度	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	全体
2025 (R7)	9.9	7.7	12.8	0	1.8	0	32.2
2024 (R6)	7.8	15.7	2.0	4.1	0.9	0	30.5
2023 (R5)	19.5	4.6	9.8	1.0	1.0	2.2	38.1
2022 (R4)	4.8	10.5	4.0	1.0	2.0	0	22.3
2021 (R3)	6.4	7.0	7.4	2.0	0	0	22.8

※ 小数点以下第2位を四捨五入しているため合計数と必ずしも合わない。

(3) 特別養護老人ホーム照古苑

入所者の状況

年度末現在

年度	性別（人）			平均年齢（歳）			平均介護度			在籍期間（年）		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
2025 (R7)	22	87	109	85.9	90.2	89.3	4.1	4.2	4.2	2.7	3.2	3.1
2024 (R6)	21	89	110	84.8	89.7	87.2	4.0	4.2	4.1	2.5	4.0	3.8
2023 (R5)	19	91	110	85.9	90.9	90.0	4.2	4.2	4.3	2.1	3.8	3.5
2022 (R4)	19	91	110	86.0	89.6	89.0	4.2	4.3	4.3	3.1	4.3	4.1
2021 (R3)	18	92	110	84.1	90.8	89.7	4.3	4.3	4.3	3.2	4.7	4.4

1日当たりの平均利用人数

単位：人・%

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均	
													利用者	稼働率
2025 (R7)	109.9	108.2	109.3	110.0	107.5	109.2	107.0	107.2	108.4	108.8	109.3	109.2	108.7	98.8
2024 (R6)	109.7	109.6	109.0	108.3	110.3	108.9	109.1	109.2	108.6	107.5	105.6	108.8	108.7	98.8
2023 (R5)	107.6	109.6	109.8	109.7	109.0	108.2	108.9	109.5	108.8	110.0	109.1	108.5	109.1	99.2
2022 (R4)	110.3	110.2	109.1	109.4	109.7	109.0	109.1	105.6	108.8	109.0	107.0	105.5	108.6	98.7
2021 (R3)	109.5	108.1	108.3	107.7	109.7	108.9	109.8	108.5	109.0	108.1	108.3	109.6	108.8	98.9

(4) 照古苑 ひまわりホーム (地域密着型指定介護老人福祉施設)

入所者の状況

年度末現在

年度	性別 (人)			平均年齢 (歳)			平均介護度			在籍期間 (年)		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
2025 (R7)	6	23	29	82.5	88.3	87.1	4.1	4.3	4.3	1.9	3.9	3.5
2024 (R6)	6	22	28	84.8	87.4	86.8	4.1	4.4	4.3	1.5	3.5	3.0
2023 (R5)	7	22	29	82.3	87.5	86.2	4.0	4.4	4.2	1.6	3.7	3.2
2022 (R4)	6	23	29	93.2	90.3	90.9	4.3	4.3	4.3	2.0	3.9	3.6
2021 (R3)	4	25	29	95.2	90.6	91.2	3.8	4.2	4.1	2.6	3.5	3.3

1日当たりの平均利用人数

単位：人・%

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均	
													利用者	稼働率
2025 (R7)	28.80	28.45	28.93	28.84	28.94	28.93	28.84	28.80	28.29	28.58	29.00	28.77	28.76	99.17
2024 (R6)	28.6	28.5	28.9	29.3	30.0	29.7	29.7	28.8	28.5	28.9	28.6	28.6	29.0	100.0
2023 (R5)	28.7	28.8	29.0	29.0	28.5	28.5	28.4	28.1	28.9	28.6	29.0	28.9	28.7	98.9
2022 (R4)	29.0	29.0	29.0	28.5	28.9	28.9	29.0	29.0	28.6	27.2	27.6	29.0	28.6	98.8
2021 (R3)	28.9	28.7	29.0	29.0	29.0	29.0	28.9	28.1	29.0	29.0	29.0	29.0	28.9	99.6

(5) 照古苑ショートステーション (短期入所)

1日当たりの平均利用人数

単位：人・%

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均	
													利用者	稼働率
2025 (R7)	7.37	9.13	9.93	9.61	7.87	8.77	9.52	8.30	9.65	8.87	10.96	9.84	9.14	45.70
2024 (R6)	3.17	4.13	4.23	4.23	4.55	4.00	4.10	4.07	5.13	3.61	3.11	3.71	4.01	20.05
2023 (R5)	10.07	9.90	11.73	12.61	12.77	12.27	12.00	10.70	5.65	3.68	2.07	1.90	8.79	43.94
2022 (R4)	10.13	10.39	12.63	10.13	9.39	13.27	12.10	9.73	10.10	12.52	12.21	10.52	11.08	55.39
2021 (R3)	9.90	7.48	6.57	7.32	8.68	6.13	7.03	8.17	8.32	8.87	9.39	10.23	8.17	40.84

(6) 照古苑ひまわりホームショートステイ (短期入所)

1日当たりの平均利用人数

単位：人・%

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均	
													利用者	稼働率
2025 (R7)	7.20	8.26	8.73	9.16	8.90	8.07	8.00	7.40	8.84	8.19	8.79	9.10	8.39	83.89
2024 (R6)	7.67	7.84	8.00	7.74	8.19	7.67	7.29	8.80	8.58	6.45	8.36	7.00	7.79	77.91
2023 (R5)	7.57	7.94	6.53	7.26	9.48	6.10	7.52	8.40	6.61	8.48	8.93	8.32	7.76	77.83
2022 (R4)	7.70	7.00	7.77	7.32	8.19	7.57	7.94	8.23	7.00	4.58	7.21	7.45	7.33	73.26
2021 (R3)	8.10	7.48	6.97	7.58	8.42	8.80	7.68	8.00	8.16	8.81	8.39	8.58	8.08	80.79

(7) 照古苑デイサービスセンター (月～土)

ア 通所介護+現行相当

1日当たりの平均利用人数

単位：人・%

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均	
													利用者	稼働率
2025 (R7)	28.69	29.22	28.52	30.52	30.76	30.85	32.04	33.44	31.65	31.36	32.04	31.88	30.72	76.79
2024 (R6)	32.3	31.4	31.6	23.3	25.3	28.7	29.1	27.9	27.6	23.6	24.6	24.7	27.4	68.0
2023 (R5)	32.1	32.3	32.8	31.4	30.5	31.0	31.6	32.0	30.0	29.9	30.7	30.4	31.1	78.0
2022 (R4)	25.7	24.8	25.9	24.0	23.9	22.6	24.1	22.6	23.1	23.0	26.7	29.3	24.6	61.0
2021 (R3)	31.4	27.7	28.2	36.2	29.3	26.9	32.6	33.3	34.6	30.8	26.9	26.9	30.4	75.0

イ 通所介護

1日当たりの平均利用人数

単位：人・%

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均	
													利用者	稼働率
2025 (R7)	25.96	26.96	25.48	27.41	28.32	28.58	29.52	30.88	29.00	28.56	29.58	29.35	28.12	70.31
2024 (R6)	30.7	30.2	30.4	21.9	23.7	27.2	27.2	25.8	25.5	21.9	22.2	22.4	25.7	64.0
2023 (R5)	30.5	31.4	32.1	31.0	30.2	30.5	30.6	30.9	30.4	29.0	29.5	29.4	30.4	76.0
2022 (R4)	24.8	24.0	25.2	23.3	23.2	21.7	23.3	21.9	22.2	22.2	25.1	27.7	23.7	59.0
2021 (R3)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	29.5	73.0

ウ 現行相当

1日当たりの平均利用人数

単位：人・%

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均	
													利用者	稼働率
2025 (R7)	2.73	2.26	3.04	3.11	2.44	2.27	2.52	2.56	2.65	2.80	2.46	2.54	2.59	6.48
2024 (R6)	1.6	1.2	1.2	1.3	1.6	1.6	1.9	2.1	2.1	1.7	2.4	2.3	1.7	4.0
2023 (R5)	1.6	0.9	0.7	0.4	0.3	0.5	1.0	1.1	0.9	1.0	1.2	1.0	0.9	2.0
2022 (R4)	0.9	0.8	0.7	0.7	0.7	0.9	0.8	0.7	0.9	0.9	1.6	1.6	0.9	2.0
2021 (R3)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.6	2.0

(8) 照古苑ひまわりホームデイサービス (月～土)

ア 通所介護+現行相当

1日当たりの平均利用人数

単位：人・%

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均	
													利用者	稼働率
2025 (R7)	13.23	13.30	13.64	13.11	13.20	11.96	12.63	13.44	13.65	11.36	12.50	13.38	12.87	71.52
2024 (R6)	16.7	15.2	16.1	15.2	14.6	13.9	12.6	13.8	13.7	9.0	12.0	12.6	13.6	上 49.0 下 68.0
2023 (R5)	18.4	18.2	17.4	17.4	16.3	20.2	18.4	17.1	16.0	17.2	17.8	17.2	17.5	58.0
2022 (R4)	20.8	21.8	20.2	21.1	20.1	21.5	21.5	19.9	20.4	16.6	20.7	18.6	20.2	67.0
2021 (R3)	22.7	20.1	19.4	21.2	18.3	17.7	21.8	21.9	22.1	23.3	19.5	20.3	20.6	

R6年度の稼働率は、上半期は通常型定員30人、下半期は地域密着型定員18人により算出。

イ 通所介護

1日当たりの平均利用人数

単位：人・％

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均	
													利用者	稼働率
2025 (R7)	12.35	12.58	13.16	12.63	12.72	11.46	12.15	12.92	13.50	11.20	12.50	13.08	12.46	69.24
2024 (R6)	16.4	14.7	15.3	14.5	12.2	19.7	12.0	13.3	12.8	8.2	11.2	11.9	13.0	上 47.0 下 64.0
2023 (R5)	18.4	18.2	18.0	17.4	15.9	19.7	17.8	16.4	15.3	16.7	17.2	17.0	17.2	57.0
2022 (R4)	20.4	21.2	19.6	20.5	19.4	20.9	20.9	19.3	20.1	16.5	20.6	18.4	19.8	65.0
2021 (R3)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20.1	66.0

ウ 現行相当

1日当たりの平均利用人数

単位：人・％

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均	
													利用者	稼働率
2025 (R7)	0.88	0.48	0.48	0.48	0.48	0.50	0.48	0.52	0.15	0.16	0.00	0.31	0.41	2.28
2024 (R6)	0.3	0.6	0.8	0.7	0.6	0.5	0.5	0.5	0.8	0.8	0.8	0.8	0.7	上 1.0 下 3.0
2023 (R5)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.5	0.6	0.7	0.7	0.6	0.6	0.3	0.4	1.0
2022 (R4)	0.5	0.7	0.6	0.6	0.7	0.6	0.7	0.6	0.2	0.2	0.1	0.2	0.5	1.0
2021 (R3)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.5	1.0

(9) ウェルネス照古苑いきいき道場 (月～土)

ア サービスA (宇土市介護予防・日常生活支援総合事業)

1日当たりの平均利用人数

単位：人・％

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均	
													利用者	稼働率
2025 (R7)	7.27	7.26	6.76	7.07	6.19	6.69	6.89	6.80	6.92	6.56	6.96	7.00	6.89	34.45
2024 (R6)	9.0	9.2	9.3	8.8	8.3	8.8	8.6	8.1	7.6	7.3	7.1	6.9	8.3	41.0
2023 (R5)	8.1	8.3	8.5	7.2	7.2	7.8	7.8	8.0	8.2	8.9	8.8	8.9	8.2	40.0
2022 (R4)	6.2	6.7	7.2	6.8	6.9	7.3	8.1	7.5	7.6	7.2	7.5	7.7	7.2	36.0
2021 (R3)	7.3	6.9	6.5	6.4	6.3	6.3	6.9	7.6	7.5	6.8	5.8	6.3	6.7	33.0

イ 自費利用

1日当たりの平均利用人数

単位：人・％

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均	
													利用者	稼働率
2025 (R7)	3.62	3.67	4.16	3.33	3.27	3.23	2.74	3.52	2.58	2.68	2.38	2.62	3.16	15.81
2024 (R6)	4.0	4.4	4.6	3.8	4.0	4.1	4.4	4.5	4.4	3.6	4.3	4.5	4.2	21.0
2023 (R5)	4.9	3.4	3.3	3.3	3.1	3.4	3.6	3.9	4.2	4.0	4.2	4.0	3.8	18.0
2022 (R4)	3.8	3.7	4.1	4.2	3.5	3.7	4.7	3.9	4.0	3.7	4.3	4.6	4.0	20.0
2021 (R3)	4.5	3.6	3.5	4.0	2.9	1.9	3.7	3.4	3.5	3.1	3.3	3.3	3.4	16.0

(10) 照古苑居宅介護支援事業所

居宅介護支援費請求件数

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
2025 (R7)	161	167	171	168	172	171	172	178	173	168	168	171	2,040
2024 (R6)	170	171	171	166	167	157	162	166	173	172	170	170	2,015
2023 (R5)	180	180	179	173	159	148	157	151	156	153	159	163	1,958
2022 (R4)	200	203	201	197	200	195	199	191	187	185	177	180	2,315
2021 (R3)	121	113	116	122	210	214	211	202	205	203	196	207	2,121

介護予防支援費請求件数

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
2025 (R7)	10	12	13	13	14	14	12	14	14	12	13	11	152
2024 (R6)	2	4	5	5	5	5	5	5	6	8	7	8	59
2023 (R5)	2	2	2	2	3	3	3	4	4	3	3	3	34
2022 (R4)	3	3	5	4	3	4	2	2	2	2	2	2	34
2021 (R3)	4	4	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	56

介護予防ケアマネジメント費請求件数

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
2025 (R7)	5	5	5	5	4	5	5	7	6	6	5	6	64
2024 (R6)	2	1	2	3	2	2	3	2	2	3	3	3	27
2023 (R5)	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	2	0	5
2022 (R4)	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3
2021 (R3)	1	1	4	1	1	3	2	2	3	1	0	2	21

年間事業者別利用人数

年 度	訪問介護	通所介護	通所リハ	短期入所	福祉用具	訪問看護	そ の 他
2025 (R7)	64	120	14	21	120	19	7
2024 (R6)	61	117	14	19	116	18	4
2023 (R5)	68	132	11	25	112	17	3
2022 (R4)	95	137	13	35	127	16	3
2021 (R3)	76	129	10	30	104	13	4

※ その他は定期巡回、訪問リハ、訪問入浴等

(1 1) 地域包括支援センター

介護予防支援費請求件数（包括分）

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
2025 (R7)	144	140	142	141	140	147	146	145	146	140	142	136	1,709
2024 (R6)	153	158	158	159	155	148	148	145	146	143	143	152	1,808
2023 (R5)	121	118	128	135	137	146	145	144	144	148	155	157	1,678
2022 (R4)	116	118	119	118	117	113	118	117	122	120	123	125	1,426
2021 (R3)	106	102	102	108	109	113	114	114	114	115	110	108	1,315

介護予防支援費請求件数（居宅委託分）

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
2025 (R7)	63	61	55	49	40	40	39	41	41	40	44	40	553
2024 (R6)	69	73	73	80	80	75	73	75	71	70	63	66	868
2023 (R5)	51	55	55	57	59	56	51	53	55	55	57	62	666
2022 (R4)	47	47	47	45	46	47	50	48	50	48	51	51	577
2021 (R3)	52	49	49	46	48	46	46	46	49	46	42	49	568

介護予防ケアマネジメント費請求件数（包括分）

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
2025 (R7)	60	46	47	65	44	39	59	51	46	46	45	56	604
2024 (R6)	58	54	54	57	48	49	56	51	48	45	50	55	625
2023 (R5)	60	76	76	59	58	66	62	78	64	61	60	60	780
2022 (R4)	57	51	72	56	67	68	62	65	76	58	64	79	775
2021 (R3)	59	55	65	63	59	70	64	64	67	51	52	60	729

介護予防ケアマネジメント費請求件数（居宅委託分）

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
2025 (R7)	17	20	13	16	16	16	13	17	16	20	17	17	198
2024 (R6)	18	15	16	17	17	14	13	10	15	18	16	18	187
2023 (R5)	13	11	10	14	12	10	12	17	13	17	17	12	158
2022 (R4)	14	11	11	13	13	20	17	18	16	18	18	13	182
2021 (R3)	16	11	12	13	7	13	9	14	13	16	9	13	146

3 宇土市地域包括支援センター活動実績

(1) センター取扱

ア 個別ケース活動状況

年度		令和7年度				合計	R 6	R 5	R 4	R 3
		活動形態								
		電話	訪問	来所	その他					
初回相談		235	15	38	1	289	274	316	270	247
総合相談 支援	ネットワーク構築	14	8	5	2	29	19	28	12	42
	(実態把握)						47	41	100	73
	相談支援	1,348	510	87	70	2,015	1,833	1970	2,022	1,853
	保健福祉サービス等	23	23	2	6	54	63	29	30	52
	社会資源へのつなぎ	10	6	0	0	16				
	その他	11	0	1	1	13				
	小計	1,406	547	95	79	2,127	1,962	2,068	2,164	2,020
権利養護	成年後見制度等	46	16	4	2	68	23	51	31	69
	虐待対応	281	103	16	14	414	226	214	230	117
	困難事例対応	170	84	8	12	274	288	268	224	137
	消費者被害	0	0	1	0	1	3	4	0	4
	その他	88	50	4	8	150				
	小計	585	253	33	36	907	540	537	485	327
包括的・継続的	委託全般	201	51	112	35	399	371	323	287	334
	支援相談	83	25	8	4	120	121	99	103	83
	その他の相談・対応	104	29	3	8	144				
	小計	388	105	123	47	663	492	422	390	417
認知症業務	見守り活動(SOS)	28	6	1	59	94	39	12	27	68
	初期集中支援チーム	33	45	3	6	87	53	69	165	47
	若年性	2	0	0	0	2				
	その他	17	6	4	2	29				
	小計	80	57	8	67	212	92	81	192	115
生活支援体制整備		27	29	2	0	58	36	26	45	35
在宅医療・ 介護連携	入退院の支援	427	60	10	4	501				
	日常の療養支援	262	76	12	12	362				
	急変の対応	6	2	0	0	8				
	看取り	2	2	0	0	4				
	小計	697	140	22	16	875	753	729	666	765
マネジメント		3,481	2,525	298	739	7,043	5,523	5,915	5,277	5,249
合計		6,899	3,671	619	985	12,174	9,672	10,111	9,489	9,231
(再掲)	認知症支援					2,123	1,196	1,109	1,221	1,306

※ 新しいシステムを導入し入力項目が変更になったため、一部に前年度の数値と比較できないものがあります。

イ 初回相談経路

年度	R 7	R 6	R 5	R 4	R 3
本人	62	37	23	27	17
家族	101	112	146	119	103
民生委員・嘱託員	7	10	15	20	14
婦人会・老人会	0	0	1	0	1
行政	21	28	30	20	18
医療・相談機関	55	63	60	52	64
居宅・サービス事業所	30	18	22	12	17
その他	0	6	19	20	13
合計	276	274	316	270	247

ウ 初回相談内容

年度	R 7	R 6	R 5	R 4	R 3
認知症		27	33	35	26
介護		153	187	131	156
生活		60	57	53	30
施設		7	10	15	10
医療・入院		15	17	11	11
各種事業		3	1	2	0
その他		9	11	23	14
合計	286	274	316	270	247

エ 行事・研修・会議等

年度	R 7	R 6	R 5	R 4	R 3
総合相談支援	88	100	87	87	48
権利擁護	50	53	34	40	30
包括的・継続的	16	25	12	20	11
認知症業務	96	120	187	113	122
生活支援体制整備	14	26	21	23	10
在宅医療・介護連携	10	48	28	15	15
地域ケア会議	22	21	28	27	23
研修会参加	22	11	20	34	53
合計	318	404	417	359	312

(2) ブランチ本町取扱

ア 個別ケース活動状況

年度		令和7年度				R 6	R 5	R 4	R 3
		相談形態			合計				
		電話	訪問	来所					
地域におけるネットワーク構築		0	0	0	0	0	1	3	1
総合相談支	初動期段階の相談対応	4	53	12	69	90	125	150	141
援業務	継続的・専門的な相談支援	30	68	5	103	159	96	133	30
保健福祉サービス等の適用調整業務		3	84	2	89	120	128	125	121
合計		37	205	19	261	369	350	411	393

イ 初回相談種別

年度	R 7	R 6	R 5	R 4	R 3
本人	3	3	4	4	3
家族	15	23	11	18	14
民生委員・嘱託員	4	1	2	3	4
婦人会・老人会	0	0	0	0	0
行政	2	0	2	2	0
医療・相談機関	26	32	20	22	22
居宅・サービス事業所	11	8	9	12	13
その他	1	1	1	5	0
合計	62	68	49	66	56

ウ 個別ケース申請件数

年度	R 7	R 6	R 5	R 4	R 3
在宅福祉	8	6	5	6	2
地域支援	8	12	25	17	23
介護保険	50	54	35	51	36
総合事業	0	0	0	0	0
その他	3	0	0	0	0
合計	69	72	65	74	61

エ 行事・研修・会議等

年度	R 7	R 6	R 5	R 4	R 3
行事・研修・会議等	5	5	5	8	5

(3) ブランチ西部取扱

ア 個別ケース活動状況

年度		令和7年度			R 6	R 4	R 3	R 2	
		相談形態							合計
		電話	訪問	来所					
地域におけるネットワーク構築		0	0	0	0	0	4	0	
総合相談支	初動期段階の相談対応	19	14	0	33	33	51	48	
援業務	継続的・専門的な相談支援	10	20	1	31	55	57	145	136
保健福祉サービス等の適用調整業務		5	13	0	18	40	32	24	32
合計		34	47	1	82	128	142	212	224

イ 初回相談種別

年度	R 7	R 6	R 5	R 4	R 3
本人	2	0	2	0	0
家族	0	1	1	2	1
民生委員・嘱託員	3	8	8	6	5
婦人会・老人会	0	0	0	0	0
行政	2	5	3	2	3
医療・相談機関	7	3	7	5	11
居宅・サービス事業所	1	0	1	2	1
その他	0	1	0	0	1
合計	15	18	22	17	22

ウ 個別ケース申請件数

年度	R 7	R 6	R 5	R 4	R 3
在宅福祉	0	4	4	2	2
地域支援	3	6	5	9	6
介護保険	5	3	2	6	7
総合事業	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0
合計	8	13	11	17	15

エ 行事・研修・会議等

年度	R 7	R 6	R 5	R 4	R 3
総合相談支援	7	6	12	23	19

4 資金収支状況

(1)法人単位

単位：円

年度		2025 (R7)	2024 (R6)	2023 (R5)	2022 (R4)	2021 (R3)
拠点	事業活動収入	1, 222, 836, 614	1, 171, 375, 804	1, 189, 002, 992	1, 154, 718, 281	1, 127, 437, 526
	事業活動支出	1, 209, 438, 398	1, 188, 082, 401	1, 141, 297, 834	1, 155, 427, 584	1, 100, 807, 160
	施設整備収入	0	0	168, 604, 000	0	324, 000
	施設整備支出	23, 039, 280	20, 579, 627	196, 034, 473	32, 522, 395	79, 459, 710
	その他活動収入	421, 969, 091	257, 468, 065	275, 636, 789	125, 867, 900	86, 932, 318
	その他活動支出	413, 054, 000	256, 073, 240	281, 835, 847	109, 443, 522	91, 137, 923
	当期資金収支差額	△725, 973	△35, 891, 399	14, 075, 627	△16, 807, 320	△56, 710, 949
	当期末支払資金残高	338, 444, 784	339, 170, 757	375, 062, 156	360, 986, 529	377, 793, 849

(2) 法人本部拠点

単位：円

年度		2025 (R7)	2024 (R6)	2023 (R5)	2022 (R4)	2021 (R3)	
拠点	事業活動収入	65, 732	349, 989	136, 405	139, 032	49, 044	
	事業活動支出	3, 854, 239	3, 464, 707	4, 348, 109	1, 617, 696	1, 495, 725	
	施設整備収入	0	0	0	0	0	
	施設整備支出	0	0	0	0	0	
	その他活動収入	3, 848, 000	3, 200, 000	4, 168, 000	1, 423, 522	2, 074, 234	
	その他活動支出	0	0	0	0	0	
	当期資金収支差額	59, 493	85, 282	△43, 704	△55, 142	627, 553	
	当期末支払資金残高	1, 301, 493	1, 242, 000	1, 156, 718	1, 200, 422	1, 255, 564	
サービス区分	法人本部	事業活動収入	2, 599	150, 468	10	9	6
		事業活動支出	3, 675, 519	3, 250, 906	4, 093, 060	1, 428, 486	1, 396, 412
		施設整備収入	0	0	0	0	0
		施設整備支出	0	0	0	0	0
		その他活動収入	3, 848, 000	3, 200, 000	4, 168, 000	1, 423, 522	2, 074, 234
		その他活動支出	0	0	0	0	0
		当期資金収支差額	175, 080	99, 562	74, 950	△4, 922	677, 828
		当期末支払資金残高	1, 936, 998	1, 761, 918	1, 662, 356	1, 587, 406	1, 592, 361
	公益的取組	事業活動収入	0	0	0	0	0
		事業活動支出	62, 929	32, 579	39, 716	0	0
		施設整備収入	0	0	0	0	0
		施設整備支出	0	0	0	0	0
		その他活動収入	0	0	0	0	0
		その他活動支出	0	0	0	0	0
		当期資金収支差額	△62, 929	△32, 579	△39, 716	0	0
		当期末支払資金残高	△291, 457	△228, 528	△195, 949	△156, 233	△156, 233
	生計困難者レスキュー事業	事業活動収入	63, 133	199, 521	136, 395	139, 023	49, 038
		事業活動支出	115, 791	181, 222	215, 333	189, 210	99, 313
		施設整備収入	0	0	0	0	0
		施設整備支出	0	0	0	0	0
		その他活動収入	0	0	0	0	0
		その他活動支出	0	0	0	0	0
		当期資金収支差額	△52, 658	18, 299	△78, 938	△50, 187	△50, 275
		当期末支払資金残高	△344, 048	△291, 390	△309, 689	△230, 751	△180, 564

(3) たんぽぽ拠点

単位：円

年度		2025 (R7)	2024 (R6)	2023 (R5)	2022 (R4)	2021 (R3)	
拠点	事業活動収入	180,735,514	179,307,641	169,868,963	159,961,085	153,646,299	
	事業活動支出	171,877,257	168,630,075	158,696,068	155,411,654	144,388,004	
	施設整備収入	0	0	0	0	0	
	施設整備支出	242,000	839,007	471,020	2,784,595	42,121,248	
	その他活動収入	0	219,120	1,027,700	13,940,460	56,500,000	
	その他活動支出	3,927,000	5,245,740	6,038,000	5,405,954	28,573,234	
	当期資金収支差額	4,689,257	4,811,939	5,691,575	7,299,342	△4,936,187	
	当期末支払資金残高	65,019,076	60,329,819	55,517,880	49,826,305	42,526,963	
サービス区分	たんぽぽ保育園	事業活動収入	170,533,440	168,258,990	158,247,785	147,909,753	144,669,567
		事業活動支出	163,964,898	161,721,699	151,323,077	149,446,066	140,289,710
		施設整備収入	0	0	0	0	0
		施設整備支出	242,000	839,007	471,020	2,784,595	5,495,330
		その他活動収入	0	219,120	1,027,700	13,940,460	30,500,000
		その他活動支出	3,927,000	5,245,740	6,038,000	5,405,954	2,547,000
		当期資金収支差額	2,399,542	671,664	1,443,388	4,213,598	28,837,527
		当期末支払資金残高	64,962,580	62,563,038	61,891,374	60,447,986	56,234,388
	五色山学童クラブ	事業活動収入	10,202,074	11,048,651	11,621,178	9,051,332	8,976,732
		事業活動支出	7,912,359	6,908,376	7,372,991	5,965,588	4,098,294
		施設整備収入	0	0	0	0	0
		施設整備支出	0	0	0	0	36,625,918
		その他活動収入	0	0	0	0	0
		その他活動支出	0	0	0	0	26,234
		当期資金収支差額	2,289,715	4,140,275	4,248,187	3,085,744	△31,773,714
		当期末支払資金残高	56,496	△2,233,219	△6,373,494	△10,621,681	△13,707,425

(4) 照古苑拠点

単位：円

年度		2025 (R7)	2024 (R6)	2023 (R5)	2022 (R4)	2021 (R3)	
拠点	事業活動収入	670,685,919	628,803,095	758,291,208	743,086,456	721,872,663	
	事業活動支出	652,799,876	637,763,426	712,978,357	742,473,725	719,216,180	
	施設整備収入	0	0	0	0	324,000	
	施設整備支出	5,240,700	2,543,700	172,989,953	21,182,000	33,445,062	
	その他活動収入	416,954,286	107,780,875	270,441,089	109,666,063	27,340,139	
	その他活動支出	407,606,000	109,578,500	106,062,847	103,675,364	61,934,689	
	当期資金収支差額	21,993,629	△13,301,655	36,701,140	△14,578,570	△65,059,129	
	当期末支払資金残高	415,415,550	393,421,921	403,773,545	367,072,405	381,650,975	
サービス区分	特別養護老人ホーム	事業活動収入	525,629,043	515,324,679	515,878,852	506,981,201	487,791,908
		事業活動支出	510,650,030	503,877,621	477,247,398	497,180,949	475,372,848
		施設整備収入	0	0	0	0	324,000
		施設整備支出	4,168,200	2,348,500	172,686,793	21,182,000	28,992,712
		その他活動収入	416,576,531	107,780,875	270,441,089	108,143,691	25,013,194
		その他活動支出	407,606,000	109,578,500	106,062,847	103,675,364	60,934,689
		当期資金収支差額	19,781,344	7,300,933	30,322,903	△6,913,421	△52,171,147
		当期末支払資金残高	246,838,439	227,057,095	219,996,162	189,673,259	196,586,680
	ショートステーション	事業活動収入	41,047,452	18,328,846	36,555,888	46,082,813	32,416,794
		事業活動支出	44,049,391	37,496,927	43,471,890	44,408,250	39,936,452
		施設整備収入	0	0	0	0	0
		施設整備支出	0	0	0	0	0
		その他活動収入	0	0	0	0	0
		その他活動支出	0	0	0	0	0
		当期資金収支差額	△3,001,939	△19,168,081	△6,916,002	1,674,563	△7,519,658
		当期末支払資金残高	90,190,703	93,192,642	112,360,723	119,276,725	117,602,162
	デイサービスセンター	事業活動収入	104,009,424	95,149,571	104,263,375	84,811,788	100,962,041
		事業活動支出	98,100,455	96,388,878	87,623,982	94,038,300	103,117,325
		施設整備収入	0	0	0	0	0
		施設整備支出	1,072,500	195,200	157,300	0	259,600
		その他活動収入	377,755	0	0	1,522,372	2,081,845
		その他活動支出	0	0	0	0	0
		当期資金収支差額	5,214,224	△1,434,507	16,482,093	△7,704,140	△333,039
		当期末支払資金残高	86,648,405	81,434,181	82,868,688	66,386,595	74,090,735

(4) 照古苑拠点つづき

単位：円

年度			2025 (R7)	2024 (R6)	2023 (R5)	2022 (R4)	2021 (R3)
サービス区分	社会福祉の増進に資する人材の育成	事業活動収入	0	0	0	0	0
		事業活動支出	0	0	2,990,875	2,271,122	0
		施設整備収入	0	0	0	0	0
		施設整備支出	0	0	0	0	0
		その他活動収入	0	0	0	0	0
		その他活動支出	0	0	0	0	1,000,000
		当期資金収支差額	0	0	△2,990,875	△2,271,122	△1,000,000
		当期末支払資金残高	△8,261,997	△8,261,997	△8,261,997	△5,271,122	△3,000,000
	居宅介護支援事業	事業活動収入	—	—	31,833,533	37,506,031	34,429,100
		事業活動支出	—	—	31,663,242	37,302,391	34,416,724
		施設整備収入	—	—	0	0	0
		施設整備支出	—	—	0	0	3,965,600
		その他活動収入	—	—	0	0	0
		その他活動支出	—	—	0	0	0
		当期資金収支差額	—	—	170,291	203,640	△3,953,224
		当期末支払資金残高	—	—	1,954,267	1,783,976	1,580,336
	地域包括支援センター	事業活動収入	—	—	69,759,560	67,704,623	66,272,820
		事業活動支出	—	—	69,980,970	67,272,713	66,372,831
		施設整備収入	—	—	0	0	0
		施設整備支出	—	—	145,860	0	227,150
		その他活動収入	—	—	0	0	245,100
		その他活動支出	—	—	0	0	0
		当期資金収支差額	—	—	△367,270	431,910	△82,061
		当期末支払資金残高	—	—	△5,144,298	△4,777,028	△5,208,938

※ 2024年度（令和6年度）から居宅・包括は公益事業拠点区分として照古苑拠点区分から分離。

(5) ひまわり拠点

単位：円

年度		2025 (R7)	2024 (R6)	2023 (R5)	2022 (R4)	2021 (R3)	
拠点	事業活動収入	260,266,648	257,216,092	260,706,416	254,531,708	251,869,520	
	事業活動支出	270,751,572	271,273,096	265,035,300	255,924,509	235,707,251	
	施設整備収入	0	0	168,604,000	0	0	
	施設整備支出	17,307,740	17,196,920	22,573,500	8,888,800	3,893,400	
	その他活動収入	1,166,805	1,268,070	0	837,855	1,017,945	
	その他活動支出	882,000	729,000	169,735,000	362,204	630,000	
	当期資金収支差額	△27,507,859	△30,714,854	△28,033,381	△9,472,950	12,656,814	
	当期末支払資金残高	△143,368,700	△115,860,841	△85,145,987	△57,112,603	△47,639,653	
サービス区分	ひまわり ホー ム (特養)	事業活動収入	168,638,646	168,156,536	165,615,321	155,466,668	150,265,219
		事業活動支出	186,021,681	188,688,149	183,943,316	175,565,595	160,782,434
		施設整備収入	0	0	168,604,000	0	0
		施設整備支出	16,870,000	17,196,920	20,649,380	305,800	648,400
		その他活動収入	1,166,805	1,268,070	0	837,855	1,017,945
		その他活動支出	882,000	729,000	169,735,000	362,204	630,000
		当期資金収支差額	△33,968,230	△37,189,463	△40,108,375	△19,929,076	△10,777,670
		当期末支払資金残高	△236,881,663	△202,913,433	△165,723,970	△125,615,595	△105,686,519
	ショ ー ト ステイ	事業活動収入	44,451,456	40,411,024	39,550,684	35,959,709	38,923,191
		事業活動支出	34,448,169	33,067,918	31,969,033	30,906,994	28,828,292
		施設整備収入	0	0	0	0	0
		施設整備支出	0	0	143,000	0	0
		その他活動収入	0	0	0	0	0
		その他活動支出	0	0	0	0	0
		当期資金収支差額	10,003,287	7,343,106	7,438,651	5,052,715	10,094,899
		当期末支払資金残高	51,216,617	41,213,330	33,870,224	26,431,573	21,378,858
	デイサー ビス	事業活動収入	47,176,546	48,648,532	55,540,411	63,105,331	62,681,110
		事業活動支出	50,281,722	49,517,029	49,122,951	49,451,920	46,096,525
		施設整備収入	0	0	0	0	0
		施設整備支出	437,740	0	1,781,120	8,250,000	3,245,000
		その他活動収入	0	0	0	0	0
		その他活動支出	0	0	0	0	0
		当期資金収支差額	△3,542,916	△868,497	4,636,340	5,403,411	13,339,585
		当期末支払資金残高	42,296,346	45,839,262	46,707,759	42,071,419	36,668,008

(6)公益事業拠点

単位：円

年度		2025 (R7)	2024 (R6)	2023 (R5) 再掲	2022 (R4) 再掲	2021 (R3) 再掲	
拠点	事業活動収入	111, 082, 801	105, 698, 986	101, 643, 093	105, 210, 654	100, 701, 920	
	事業活動支出	110, 155, 454	106, 951, 097	101, 644, 212	104, 575, 104	100, 789, 555	
	施設整備収入	0	0	0	0	0	
	施設整備支出	248, 840	0	145, 860	0	4, 192750	
	その他活動収入	0	5, 000, 000	0	0	245, 100	
	その他活動支出	639, 000	520, 000	0	0	0	
	当期資金収支差額	39, 507	3, 227, 889	△196, 979	635, 550	△4, 035, 285	
	当期末支払資金残高	77, 365	37, 858	△3, 190, 031	△2, 993, 052	△3, 628, 602	
サービス区分	居宅介護支援事業	事業活動収入	34, 354, 167	33, 243, 975	31, 833, 533	37, 506, 031	34, 429, 100
		事業活動支出	33, 577, 360	34, 659, 917	31, 663, 242	37, 302, 391	34, 416, 724
		施設整備収入	0	0	0	0	0
		施設整備支出	0	0	0	0	3, 965, 600
		その他活動収入	0	5, 000, 000	0	0	0
		その他活動支出	288, 000	236, 000	0	0	0
		当期資金収支差額	488, 807	3, 348, 058	170, 291	203, 640	△3, 953, 224
		当期末支払資金残高	5, 791, 132	5, 302, 325	1, 954, 267	1, 783, 976	1, 580, 336
	地域包括支援センター	事業活動収入	76, 728, 634	72, 455, 011	69, 759, 560	67, 704, 623	66, 272, 820
		事業活動支出	76, 578, 094	72, 291, 180	69, 980, 970	67, 272, 713	66, 372, 831
		施設整備収入	0	0	0	0	0
		施設整備支出	248, 840	0	145, 860	0	227, 150
		その他活動収入	0	0	0	0	245, 100
		その他活動支出	351, 000	284, 000	0	0	0
		当期資金収支差額	△449, 300	△120, 169	△367, 270	431, 910	△82, 061
		当期末支払資金残高	△5, 713, 767	△5, 264, 467	△5, 144, 298	△4, 777, 028	△5, 208, 938

※ 2024 年度（令和 6 年度）から居宅・包括は公益事業拠点区分として照古苑拠点区分から分離。2023 年度（令和 5 年度）以前は照古苑拠点区分から再掲したもの。

5 積立資産の状況

(1) たんぽぽ拠点

単位：円

年度	保育所人件費 積立資産	保育所修繕 積立資産	保育所備品等 購入積立資産	保育所施設設備 整備積立資産	退職給付 引当資産
2025 (R7)	10,000,000	5,500,000	2,892,620	29,000,000	4,537,790
2024 (R6)	10,000,000	5,500,000	2,819,620	26,000,000	4,217,870
2023 (R5)	9,000,000	5,500,000	2,500,000	23,000,000	3,923,750
2022 (R4)	6,000,000	5,500,000	2,500,000	21,000,000	4,616,050
2021 (R3)	16,000,000	6,500,000	4,700,000	16,000,000	4,974,670

(2) 照古苑拠点

単位：円

年度	照古苑施設整備 積立資産	照古苑備品購入 積立資産	照古苑人材育成 確保積立資産	退職給付 引当資産	
2025 (R7)	498,374,571	3,000,000	3,000,000	43,889,588	
2024 (R6)	505,127,842	3,000,000	3,000,000	45,355,243	
2023 (R5)	507,139,342	3,000,000	3,000,000	50,690,467	
2022 (R4)	503,075,495	3,000,000	3,000,000	48,729,925	
2021 (R3)	505,157,495	3,000,000	3,000,000	49,487,456	

(3) ひまわり拠点

単位：円

年度	ひまわり備品 購入積立資産	退職給付 引当資産			
2025 (R7)	1,160,000	10,212,232			
2024 (R6)	1,160,000	10,674,697			
2023 (R5)	1,160,000	10,898,727			
2022 (R4)	1,160,000	9,694,082			
2021 (R3)	1,160,000	9,316,241			

(3) 公益事業拠点

単位：円

年度	退職給付 引当資産				
2025 (R7)	7,184,009				
2024 (R6)	6,557,284				
2023 (R5)	—				
2022 (R4)	—				
2021 (R3)	—				